

# 大鹿村中央構造線博物館たより

## 183号



2024年8月発行

TEL: (0265) 39-2205  
staff69@mtl-muse.com

## 2024年能登半島地震に伴う地変



図1 見学経路(往路)

2024年6月23日、日本地質学会中部支部の巡検「能登半島地震に伴う地変の視察」に参加し、富山駅から大型バスで能登半島西岸の輪島市門前町の4m近く隆起した漁港まで行ってきました。

往路の途中、氷見市内の様子をバス車窓から見ました。氷見市内は2024年1月1日の能登半島地震時の最大震度は5強でしたが、市街地はもともと浜堤と呼ばれる砂丘列だった場所柄、液状化による被害が大きく、家屋の倒壊・地割れ・噴砂等が起きたそうです。一部の地区では、家が傾いてしまったらしく、応急危険度判定で「危険」と判定され、入口に赤紙が貼られた家が連なっている通りもありました。

七尾市から先は、「能越自動車道」、「のと里山海道」という2つの自動車専用道路を通りましたが、まだ輪島方面への一方通行しか開通していない状態でした(\*1)。また、開通した区間でも、ところどころ段差ができている場所があり、大きくバスが揺れました。のと里山海道は、谷筋に橋を架けずに、盛土をして道路を作っている場所が多く、その部分が壊れてしまったそうです。また、地震後早い段階で調査に行

かれた方の話では、先方が沈下している段差の場合、どのくらいの高さの段差なのかの予見が難しく、はまってしまったり、パンクしてしまったりする車が見られたそうです。

のと里山海道を降り、一般道で、峠を越えて能登半島西岸に向かう道路上は、斜面の崩壊が目立ち、対策工事中の箇所が何か所かありました。車窓からは、瓦屋根にブルーシートがかけられている家も増えてきました。一方で、休憩のため立ち寄った道の駅とき海街道は通常通り営業中で、青のりが入ったサザエ<sup>もなか</sup>を購入手、早速味見しました。

今回の最北見学地、黒島漁港(写真1)・鹿磯漁港では、地面が3~4mほど隆起して、漁港が干上がってしまった様子を見ました。隆起量が大きかったために、津波の被害は少なく済んだようですが、この状態では漁港として使えません。またこの地域は2024年能登半島地震の最大震度が震度7だったことから地震の揺れによる被害も大きかったようでした。



写真1 黒島漁港

今回の視察を通して、能登半島は、地震や豪雨で被災すると車が通れなくなり、孤立してしまいやすいという点では大鹿村と似ていると思いました。大鹿村でも、しばらく孤立集落になってしまっても生き延びられるよう、日ごろから備えをしておくことが重要だと感じました。(宮崎)

(\*1)のと里山海道は、2024/7/17より対面通行再開